

西条市 実践防災計画

1 はじめに

(1) 背景

平成 16 年、日本各地では台風や集中豪雨による土砂崩れ、洪水などの自然災害が多発し、多数の被害が出ました。

西条市も例外ではなく、平成 16 年の台風 21 号・23 号によって、山間部では土石・森林材が川に流入して土石流・流木となり、小河川の橋脚にせき止められて氾濫するという被害が発生し、多数の人命被害が発生しました。

これを受けて、西条市では、土砂災害、河川氾濫、さらに地震・津波対策も含めたあらゆる災害に強いまちづくりの実現に向けて、今年度から『西条市実践防災計画』の策定を目指しています。



写真 1 平成 16 年の台風 21 号 23 号による被害



写真 2 平成 16 年の台風 21 号 23 号による被害

現在、以下の項目について、対策が検討されています。

- ・ 土砂災害、河川氾濫に対する防災対策
- ・ 活断層地震を想定した地震防災対策
- ・ 東南海・南海地震を想定した津波・高潮対策
- ・ 災害に強い森づくり
- ・ 災害に対する行政と市民の組織作り

『西条市実践防災計画』で策定される事業は、広範な分野にわたり、効果的かつ円滑に推進されることが求められます。なかでも甚大な被害を出した土砂災害に対する施策は、西条市の緊急課題として取り組むべき事案であり、今年度は被害の発生した山際の地区を先進的に実施します。

(2) 業務の意義と目的

この実践防災計画では、以下の 3 項目を大きな目的としています。

まず地域の弱い人たちを災害から守ること
できるだけ早く逃げること
危険な地域を知ること

2 事業の進め方

『西条市実践防災計画』は、以下の5項目を主に実施します。

地域の皆さんからの聞き取り調査

災害図上訓練（Disaster Imagination Game、通称、DIG（ディグ））

災害現場見学ツアー

コミュニティハザードマップ（地域防災地図）の作成

地域の災害時連絡体制の確立

など

以下に、それぞれの項目の概要を説明します。

（1）地域の皆さんからの聞き取り調査

防災の専門家の説明により皆さんに災害の知識を深めてもらい、がけ崩れや土石流、洪水だけでなく、地震、高潮・津波などあらゆる災害の危険性や発生の原因、対策を知っていただきます。そして、用意した聞き取り調査票に答えてもらうことで、災害時に体験・行動したこと、感じたこと、あるいは今後体験する恐れのある災害への意識などをお聞きします。

また、地域に残る言い伝えや昔をよく知る長老の方々のお話を聞きにいきます。昔の人々が残してくれた貴重な知識や教訓を失うことなく、後世に残していくために、地域の皆さんの協力が欠かせません。



写真3 聞き取り調査の例（大保木地区）



写真4 聞き取り調査の例

（飯岡山口・早川・大浜・加茂・大郷地区）

(2) 災害図上訓練

各地域別の地図上に自宅や危険箇所、避難場所・経路を記入し、実際に体験した災害時の問題点や、地図上で確認できる避難時の課題等を出し合い、各市民が自分たちの避難計画について検討を行うことで、市民自らの手による防災マップ作成を目的としています。

<災害図上訓練の手順>

ア グループ分けと概要の説明

1枚の地図につき、6～10人に班分けを行います。さらに災害図上訓練を実施する意義や目的、手順についての説明を行います。

イ 雰囲気作り

参加者が発言・協力しやすい環境を作るため、自己紹介や簡単な共同作業を行います。

ウ 参加者の立場の決定と被害想定の説明

訓練を行う上での役割（市職員、消防団員、要介護者等）を決定します。さらに今回、想定している災害の被害予想について説明を行います。

エ 地図への書き込み

自宅や守りたい場所、災害危険箇所等の情報を地図上に書き込みます。（写真5）

オ 災害の発生による行動を地図へ追加書き込み

災害が発生したという仮定のもと、地図上に避難場所や避難経路を書き込みます。（写真6）



表1 災害図上訓練の流れ



写真5 地図上に各人の家や危険箇所を記入（神戸地区）



写真6 地図上に避難場所や避難経路を記入（神戸地区）

カ 班ごとの検討

災害時の問題点や避難時の課題を出し合い、班ごとに議論します。そして自分たちの最適な避難計画について検討を行います。(写真7)

キ 成果の発表

自分たちが体験して感じたことや出し合った課題点、自分たちで考えた対応方法について、これまで作成してきた地図をもとに、各班で意見を整理し、成果を発表します。(写真8)

ク 講評

今回の集会を振り返り、よく挙げた意見や個性的な意見等の総括を行います。



写真7 災害時の問題点や避難時の課題の抽出(神戸地区) 写真8 検討内容や解決方法の発表(神戸地区)

地図は都市計画図(1/2500)や森林計画図(1/5000)、住宅地図等を利用します。記入する主な内容は、以下のとおりです。

- ・ 参加者の自宅
- ・ 大切な場所、守りたいもの
(病院、学校、養護学校、独居老人宅、体の不自由な人の家、等)
- ・ 土砂災害危険箇所、ため池危険箇所、浸水予想箇所
- ・ 中小河川、水路
- ・ 平成16年の台風で、土石流やがけ崩れ、地すべり、浸水が発生した地域
- ・ 皆さんが危険と感じている箇所
- ・ 平成16年の台風21号、23号時の避難場所、避難経路と、皆さんが考える避難場所、避難経路

(3) 災害現場見学ツアー

災害図上訓練で分かった危険箇所や避難経路の現場見学を行います。市民の皆さん自身が災害に対して地域の抱える課題を知り、地域への関心を高めることに役立つものと考えています。

(4) コミュニティハザードマップ(地域防災地図)の作成

聞き取り調査や災害図上訓練、災害現場見学ツアーから得られた、災害が発生した箇所や皆さんが危険と感じている箇所の情報、指定の避難場所と皆さんが自ら考えた避難場所、避難経路を整理して、地域防災地図を作成します。これにより地域の实情に沿った実効性の高い地域防災地図を皆さん自身が主体となって作成します。

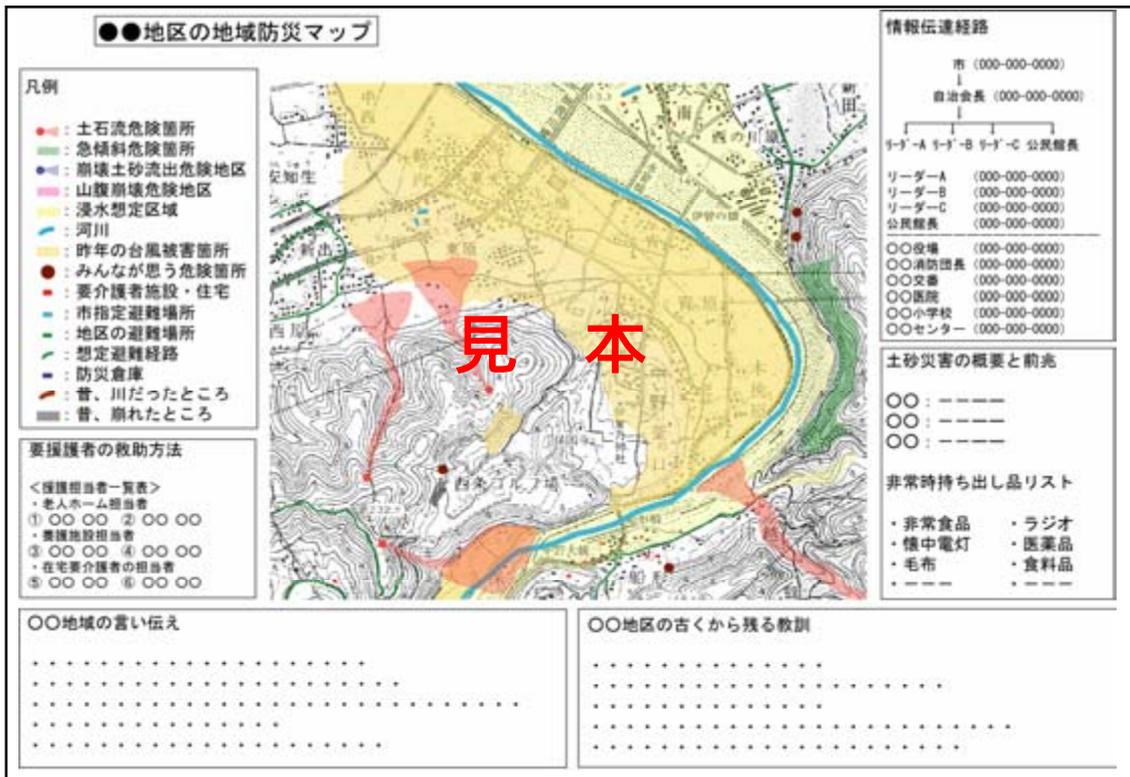


図1 コミュニティハザードマップ(地域防災地図)の例(見本です。実際とは異なります)主に、以下の内容についての書き込みを行います。

- ・ 災害発生危険性のある指定箇所(土石流、がけ崩れ、浸水)
- ・ 地震や津波、高潮による被害が想定されている区域
- ・ 平成16年の台風21号、23号で被害があった箇所
- ・ 市民が危険だと考える箇所
- ・ 自宅
- ・ 要介護者や危険地区居住者
- ・ 私の避難場所、避難経路
- ・ 公共施設、防災倉庫
- ・ 各代表者、施設の連絡先
- ・ 災害時の教訓や備え等
- ・ 地域に残る言い伝えや長老の意見
- ・ 昔、川だったところや崩れたところ

(5) 地域の災害時連絡体制の確立

地域防災地図によって市民の皆さんから提案された、避難計画や情報収集・伝達方法に見合う形で、市民間、市民と行政の間の連絡網の整理、連絡方法を検討します。

一方で、災害が発生した時のためだけのつながりでは、継続性に課題が残ります。そこで、地域に既存のつながりの調査を行い、これを災害時のつながりと関連付ける提案を行って、災害時だけでなく日常時にも有効な、継続性のある地域連絡体制を築く予定をしています。